

## 令和3年度 第1回富田林市補助金等検討委員会 会議録要旨

総務部行政管理課

- ◆日 時:令和3年11月5日(14:00~15:40)
- ◆場 所:富田林市役所 3階 庁議室
- ◆委 員:別紙のとおり
- ◆事務局:谷口、阪谷、北村、上久保、井上
- ◆参加者:吉村市長
- ◆開催形態:公開(傍聴人1人)

発言者	概 要
事務局	<p><b>はじめに</b></p> <p><b>1. 事務局より当委員会についての説明及び委員紹介</b></p> <p>・定刻になりましたので、只今より、令和3年度第1回富田林市補助金等検討委員会を始めさせていただきます。</p> <p>委員の皆様方には大変お忙しいところお集まりいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>私は事務局で行政管理課長の阪谷と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本日は感染症拡大防止の観点から、皆様にはマスク着用のご協力をいただきまして、会議室も換気をしながらの進行とさせていただきますのでご了承ください。</p> <p>初めに、委員の皆様方を配席順にご紹介させていただきます。</p> <p>学識経験者として、久委員でございます。</p>
久委員	<p>・久でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>富田林市では、様々なお仕事をさせていただいていますが、同じ行政管理課というところであれば、指定管理者制度に関する仕事をさせていただいていますし、今日の補助金に関連する話で言いますと、市民活動支援のお仕事もずっとさせていただきました。これからもどうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>・同じく学識経験者といたしまして、佐井委員でございます。</p>
佐井委員	<p>・佐井でございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>専門が経営・会計なものですから、他市町村にて監査委員を長年務めさせていただきました。その他には、会計に関連するような委員会で委員をさせていただいています。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>・同じく学識経験者といたしまして、中川委員でございます。</p>

中川委員	<p>・皆さん、こんにちは。中川と申します。</p> <p>富田林市との関係では現在、監査委員を務めさせていただいております。よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>・続きまして、行政経験者といまして、藤委員でございます。</p>
藤委員	<p>・皆さん、こんにちは。ご紹介に預かりました藤でございます。</p> <p>もう10年以上経過いたしますので、思い出すことが中々難しい年になってきましたが、他市にて勤めておりました。</p> <p>また、現在、他市町村で監査委員を務めさせていただいております。精一杯、この委員会に取組んでまいりたいと思いますので、皆さんのご指導の方も一つよろしくお願い申し上げます。</p>
事務局	<p>・最後に、本市職員といまして、土井委員でございます。</p>
土井委員	<p>・皆さん、こんにちは。市民人権部長の土井でございます。今年で2年目になります。</p> <p>まだまだこれから勉強するところがございますので、どうぞご指導いただきますよう、よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>・改めまして、委員の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p><b>2. 市長挨拶</b></p> <p>・開会にあたりまして吉村市長よりご挨拶を申し上げます。</p>
市長	<p>・今日は本当にありがとうございます。ご紹介賜りました、富田林市長の吉村善美でございます。</p> <p>開会にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げたいと思います。</p> <p>委員の皆様方におかれましては、公私何かとお忙しい中にも関わりませず、補助金等検討委員会の委員をお願いいたしましたところ、快くお受けいただきまして、本当にありがとうございます。</p> <p>私自身は、富田林の市長に就任をさせていただいて、2年7ヶ月になります。</p> <p>「市民とともにつくる、市民が幸せになる、市民本位の市政」ということをスローガンに掲げて、誠心誠意全力で取り組んでいるところでございます。</p> <p>近年、少子高齢化の中で、行財政運営を取り巻く環境は非常に厳しいという状況にもあります。</p> <p>一方で、市民の皆様方のニーズは多様化しているという状況もございます。また、今コロナの状況でもございます。</p>

	<p>そういう意味で、さらなる収入の確保、収入の減少という状況がありますので、収入をしっかりと確保していく、そして同時に支出をできるだけ抑えていくということが行政にとっては求められていることではないかなというふうに思っております。</p> <p>このような状況の中においても、子や孫、次世代の方々につけを残すことのないように、しっかりとした施策の集中と選択を経営的視点に立って、将来を見据えた持続可能な行政財政運営を進めていくということが大事であると思っております。</p> <p>昨年、策定いたしました、富田林市の行財政経営改革ビジョンにおいては、更なる補助金の適正化のために補助金等のあり方の見直しを掲げております。</p> <p>まちは、市民の皆様と行政と一緒に共同で作っていく創造物だと思っておりますし、また富田林は、昨年の7月に内閣府のSDGsの未来都市ということに選定をされまして、またモデル事業も選定をいただきました。こういうSDGsの取組み、或いは、公民連携、民間連携を含めてですね、しっかりと行政を進めていかなければならないと思っておりますが、今日からの補助金等検討委員会の課題であります、いわゆる団体補助、補助金についても、ある意味では長期にわたって硬直化している状況もあるんじゃないか。ある意味、また、補助金に依存するとかまた頼っていて、自主性や自立性を一定阻害していることになっているんじゃないかと。また補助金の成果や効果が十分にあらわれていないのではないかとという側面もあるんじゃないかということを色々な形で補助金に関わっての課題というのは内在しているという認識をいたしております。</p> <p>今般は、これまでの経過を踏まえて、現行の補助金制度を根本から見つめ直す、そういう機会にいたしたいと思っております。</p> <p>時代のニーズに即した新たな補助金制度の再構築に向けて、客観的な視点でご審議を賜り、補助金のあり方について整理をさせていただいて、来年度以降、この補助金の見直しを施策へと反映させていくと、こういう取組みを進めていきたいというふうに思っています。</p> <p>委員の皆様方におかれましては、本日から大変タイトなスケジュールでございますけれども、ぜひご議論をいただき、富田林市の方向についてですね、指し示していただいたらありがたいかなというふうに思っておりますので、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。開会にあたりましてのご挨拶に代えさせていただきますと思います。</p> <p>本日からどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p><b>3. 委員委嘱(委員長・副委員長の選任)</b></p> <p>事務局 ・続きまして、委嘱状の交付についてですが、感染症防止の観点から、あらかじめ皆様の上におきまして、ご理解賜りますようお願いいたします。</p> <p>次に委員会設置要綱に基づき、互選によりまして委員長及び副委員長の選任をお願いしたいと思いますが、委員の皆様、何かご意見などございますでしょうか。</p> <p>藤委員 ・委員の方ではよく分からないので、事務局から何か提案していただければ、ありがたいなと思います。</p>
--	--

事務局	<p>・ご意見ありがとうございます。それでは、事務局の案をお示しさせていただくということでしょうか。</p> <p>→(異議なし)</p>
事務局	<p>・事務局といたしましては、本市の附属機関の委員として、長年、様々な委員に携わっていただいております、久委員に委員長をお願いしたいと考えております。</p> <p>また、佐井委員におかれましては、経営・会計をご専門にされており、様々な団体において監査委員を務められていますことから、副委員長をお願いしたいと考えております。</p> <p>委員の皆様、いかがでしょうか。</p> <p>→(異議なし)</p>
事務局	<p>・ありがとうございます。それでは、久委員を委員長に、佐井委員を副委員長をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>なお、本来はこの後、久委員長に会議の進行をいただくところではございますが、本日は第1回目ということもあり、事務局の方で会議の進行をさせていただきたいと思っております。</p> <p>それでは、担当の上久保よりご説明をさせていただきます。</p>
事務局	<p><b>4. 委員会(議事録)の公開・非公開及び配布資料の取扱い</b></p> <p>・行政管理課の上久保と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは議事に入ります前に、当委員会を公開するか否かについて確認をさせていただきます。</p> <p>事務局としましては、市民の皆様にはわかりやすく、開かれた行政運営を推進するため、本市の会議の公開に関する指針に基づき、会議を公開とし、議事録については、委員名を表記して、議事概要を作成し、委員の皆様にご確認していただいたものを、市ウェブサイトでご公開したいと考えています。</p> <p>また、会議を公開とした場合、委員の皆様にご配布している資料と同様の資料を傍聴人にも配布する予定としております。委員の皆様、いかがでしょうか。</p> <p>→(異議なし)</p>
事務局	<p>・ありがとうございます。それでは、会議及び議事概要を公開とし、議事作成のため、会議を録音させていただきますことをご了承ください。</p> <p>なお、本日の会議につきまして、委員総数の半数以上のご出席をいただいております、本会議設置要綱に規定された委員会の開催要件を満たしておりますことを報告させていただきます。</p> <p>最後に事務局からお願いがございます。本日の委員会では、会議録の作成支援として、AIを活用した音声認識システムを導入いたしております。</p> <p>お手数ではございますが、発言の際には、お手元のマイクを使用し、発言していただき</p>

すようお願いいたします。

それでは、会議を公開する運びとなりましたので、会議室前におられる傍聴希望者の方にご入場いただきます。

委員の皆様におかれましては、しばらくお待ちいただきますようお願いいたします。

≫≫≫≫≫ 傍聴人 入場 ≪≪≪≪≪

## 5. 補助金検討の概要説明

事務局

・改めまして、委員会を進めさせていただきます。次第に沿い、ご説明申し上げます。  
まず初めに、配布資料の確認をさせていただきます。

### →配布資料確認

事務局

・それでは、本市の概要と財政状況について説明させていただきます。  
まず初めに、富田林市について簡単にご紹介させていただきます。  
資料1、本市の概要と財政状況についての1ページ目をご覧ください。資料上段左側に大阪府の地図を載せております。  
本市は、大阪府の南東に位置し、南河内地域の一角を占めています。  
本市の中央には、大和川水系の石川が流れ、東には、金剛山系の南部山地が連なっています。  
市の面積は39.7平方キロメートルで、政令指定都市を除くと、大阪府下で16番目の大きさの自治体となっております。  
資料上段の右側には、本市の地図を載せております。  
市の特徴としまして、地域の東側、東部及び南東部には農地が多く、自然溢れる地区となっております。地域の西側は、高度経済成長期に造成されたニュータウンである、金剛地区を擁しており、市の東西にて異なった性格を持っています。  
中部には大阪府下唯一の伝統的建造物群保存地区の寺内町があり、中世の町並みを残した歴史的な景観を保っています。  
その下のグラフをご覧ください。こちらは、本市の人口の推移を示しています。  
本市は、大阪市の近郊都市として、人口伸ばしてきましたが、平成14年をピークとし、減少傾向にあり、令和3年の人口は約11万人となっております。  
これは、政令指定都市を除いて、大阪府下で17番目の人口となっております。  
続いて、本市の財政状況に移らせていただきます。なお、本日の財政状況の説明につきましては、補助金を検討するにあたって、事務局にて分析したものととなりますので、他部署との分析とは一部異なる点があるかもしれませんが、ご了承ください。  
それではお手元の資料①の2ページをご覧ください。  
令和2年度の本市の決算額は、一般会計と五つの特別会計を合わせて、歳入が、819億9000万円、歳出が806億7000万円となっております。翌年度へ繰り越す8000万円を差し引いた実質収支は約12億円の黒字となっております。

次に、普通会計の決算を見ていきます。普通会計とは、各自治体を統一的に比較できるように国のルールに基づいて、一般会計を純計したものです。令和2年度の普通会計の歳入は557億円、歳出は549億円で、前年度に比べると約112億円の増、率にすると約25%の増となっています。

決算額の大幅な増加の原因としましては、国民1人当たり10万円を支給した特別定額給付金によるものです。

資料2ページ下部歳入について見ますと、自主財源のうち約7割を占める市税は、前年度に比べると約5000万円の減となっています。一方で、依存財源の約2割を占める地方交付税は約9000万円の増となっております。

令和2年度は、前年から引き続き、富田林病院の建て替えに伴う市債の発行や、基金の取り崩しが発生しており、歳入として計上しております。

続きまして資料4ページをお願いします。

市税につきましては、令和2年度は微減となっておりますが、平成27年度以降の市税徴収率は上昇傾向にあります。

また、市民1人当たりの市税収入は12万4000円となっております。

令和2年度決算における大阪府下市町村のデータ一覧が未発表ですので、令和元年度での比較となりますが、大阪府下市町村で31番目の市となっております。

資料5ページをお願いします。

歳出決算額は、前年から約25%増の549億8000万円となっております。歳出を行政目的ごとに分類すると、総務費が前年より290%、111億円の増となっております。これは歳入でも説明しました、新型コロナウイルスに対する経済対策として行われた特別定額給付金によるものです。

また、後期高齢者医療、介護保険特別会計の繰出金が増加したため、民生費が3.9%、8億円の増となっております。公債費については、将来の公債費の償還費用を抑制するため、市債の一部を繰り上げ償還したため、6億円の増となっております。

資料6ページをお願いします。

歳出を、経済的性質によって分類すると、人件費や扶助費、前述の公債費の増により、義務的な経費が4.4%、10億円の増となっています。

一方で、投資的経費である普通建設費は約30%、17億円の減となっております。この減につきましては、小学校のエアコン設置費の減、及び、市営住宅の建て替え事業の完了によるものとなっております。

資料7ページをお願いします。

市債残高は、前年度から0.7%減の314億円となっております。令和2年度は、新たに約28億円の市債を発行しましたが、定期償還に加えて、繰上償還を実施したため、残高は減少しました。市債残高のうち、165億円、実に50%強を臨時財政対策債が占めております。この臨時財政対策債は、自治体の一般財源の不足を行うために発行する特例債であります。

また、下段のグラフをご覧ください。本市の1人当たり市債残高は、大阪府下、市町村

事務局	<p>の平均を下回っていましたが、近年は近い値まで上昇してきています。</p> <p>資料8ページをお願いします。</p> <p>基金残高は、前年度に比べると、6.7%の減、95億8000万円となっています。減の理由としては、富田林病院の建て替え経費の一部に充当したこと、また、市債の繰上償還の原資として充当したためです。</p> <p>安定的、計画的な財政運営を行うために積み立てる財政調整基金は、目安として、標準財政規模の10%程度を保有することが望ましいとされており、本市の残高は目安を維持しており、健全と言えますが、1人当たり基金残高は減少しており、大阪府下市町村の平均値に近づいております。</p> <p>続いて、財政、財政指標について説明いたします。</p> <p>資料の9ページをお願いします。</p> <p>財政力指数は、自治体の財政基盤の強さをあらわすもので、標準的な行政活動を行う財源を、自治体がどの程度確保できているかを示します。</p> <p>本市の令和2年度の財政力指数は0.648となっており、大阪府下の平均よりも低くなっています。これは他市に比べ、地方税などの自己財源が弱いことを意味しています。</p> <p>資料10ページをお願いします。</p> <p>経常収支比率は、財政構造の弾力性を示す指標です。経常的に入る一般財源収入のうち、どの程度経常的な義務的経費に充てられたかを示します。</p> <p>本市の令和2年度の経常収支比率は93.0となっており、前年より改善しましたが、一般財源の大部分を義務的経費に充てている状態です。一般に75%程度が妥当とされ、80%以上は、財政構造の弾力性が失われつつあるとされています。</p> <p>最後に資料の11ページをお願いします。</p> <p>実質公債費比率は、自治体における公債費が、どの程度財政的な負担になっているかを示す指標です。</p> <p>自治体は市債を発行する際、大阪府と協議を行います。実質公債費比率が18%を超えると、協議ではなく許可が必要な団体となります。本市の令和2年度の実質公債費比率は、マイナス1.2であり、理論上、財政負担は発生していないことを示しています。</p> <p>以上をもちまして、令和2年度決算を用いた本市の財政状況の説明とさせていただきます。</p> <p>本項で何かご質問などがございましたでしょうか。</p> <p><b>→質問なし</b></p> <p>・続きまして、本市の補助金の現状、過去の取組みについての説明をさせていただきます。</p> <p>資料②、A3横開きの資料をご覧ください。</p> <p>まず、補助金とは何かですが、補助金とは、市が広域性のある事業や団体に対し、金銭的に援助するものです。地方自治法第232条の2項に根拠が規定されており、これに基づいて、富田林市補助金等交付規則を制定し、各補助、各補助金ごとに要綱を定め</p>
-----	---

ております。これらに基づき、補助金の適切な執行に努めております。

また、本市では、補助金をその性質から五つの類型に区分しております。

分類としては、一つ目が、団体運営費補助、公益目的に適う活動を行っている団体の立ち上げ時の初期支援を行うものです。

二つ目は、奨励的事業費補助で、補助事業者が能動的、主体的に行う活動に対する補助となっています。市が推薦推進する施策に合致した事業に対して補助を行います。

三つ目は、委託的事業費補助で、施策の推進を図る上で、本来、市が実施する事業を受動的意思によって行う事業者に対して補助を行います。

四つ目は、制度的補助で、国または大阪府の補助制度に付随するもので、本市の会計を経由するトンネル事業などが当たります。本市に財政的な負担がなかったり、負担が少ないものを指します。

最後に五つ目は、個人給付で、本市の政策的判断によって補助するものとなっております。

この五つに分類した補助金ですが、これまでも補助金制度の見直しを進めてきており、現在の状況がどうなっているかを示す表が、資料左側の下段、平成25年度と令和2年度の決算額の比較をしたものです。

まず、補助金総額についてですが、平成25年度は12億円、令和2年度は32億円と大きく乖離しております。これは欄外の米印にて補足しておりますが、富田林病院の建て替え、民間保育所の整備といった臨時的なものが多かったため、比較するためにこれらを除くと、資料一番下の行になりますが、令和2年度決算は約10億円となります。

ただし、この10億円の中には、更にコロナ関連の感染予防や経済対策といった補助金が含まれている点はご了承ください。

後ほど、より詳細に補助金の推移を見ていきますので、その際にここは説明させていただきます。

補助金の累計については、平成25年では3分類でしたが、平成26年に前述の5分類に改めました。

補助金の数については、団体運営費補助で言いますと、33あった補助金が、見直しや整理を行い、現在は5つの補助金となっております。

資料右側の上段、4、これまでの本市の補助金への取組みについて説明いたします。

各補助金について、その目的、公益性、透明性を確保するため、補助金の基準、基本指針を策定し、運用にあたっては、庁内で統一的ルールに基づく事務マニュアルを制定しました。透明性については、各補助金の要綱をウェブサイトで公開し、決算額などについても公開しております。

今後の課題としては、補助対象者の固定化の解消、補助金の効果検証、類似した補助金の整理、また、補助金ごとに支出内容が適切かのチェックや見直しなどを考えております。

以上、本項で何かご質問などがございましたでしょうか。

事務局	・補足とりますが、只今、説明した内容が、市として補助金について取り組んできたことをまとめたものでございます。日々改善には努めてきましたが、中々踏み込めない点などもございまして、この附属機関を設置させていただいたという経緯でございます。
佐井委員	・初めて、富田林市の補助金制度について説明を受けましたが、団体運営費補助というのは、団体の立ち上げ時の支援なんですか。一旦、立ち上がった後の継続的な運営の補助は行わないということなんですか。
事務局	➡はい。本来、そういった位置づけで行われるものですが、実態としては、継続的に補助事業が続いているものもでございます。後ほど、補助金一覧のところの説明をさせていただこうと考えています。
佐井委員	・資料②の2-①では、団体運営費補助については、団体への立ち上げ支援と記載がなされているにも関わらず、文末では運営に必要な基礎的経費を補助すると記載されているので、内容が相反するもので非常に分かりにくく感じるのですが。
事務局	➡ご指摘のとおり、団体の初期支援としながら、実際には、継続的になされている補助事業もありますのでご意見として賜りたいと思います。 また、団体運営費補助として、過去から続いている団体については、どうしても運営に必要なものというのが残ってしまっていて、今後、新たに創設する場合には、初期支援のみというのを考えています。
久委員長	・先ほどの佐井委員のお話の延長上になるんですけども、資料②で示された「補助金の種類」や「名称」は、現時点でのものであり、これらも踏まえて、適切かどうかを検討委員会で議論をする。更には、どういった見直しの基準や視点を持って取り組むべきかを示すということが、この委員会の一つの大きな目的であるという理解でいいのでしょうか。
事務局	➡仰るとおりでございます。
久委員	・少し気になるのが、今後の課題として、「長期にわたり硬直化している」という言葉がありましたが、何が課題で硬直化しているのかは、幾つかの判断基準があると思いますので、この内容を精査していく必要があるのではないかと思います。 一つは、何十年も前に制度が立ち上がっており、内容が時代に即していないというようなことでの硬直化という意味もありますし、同一団体が継続的に補助金を受け取っていることによる、団体の発展性を阻害しているという意味での硬直化もあるわけですね。 ただ、一方で、市と協働を続けていただいている団体が、継続的に補助金を受け取っていることが、必ずしも悪いことではないと思いますので、何が問題なのか、どのように整理をして、今後を見直していくのかというところをもう少し精査していくと、より分かりやすくなるのではないかなと思いますので、今後の委員会の中で検討していければと思います。
事務局	➡ありがとうございます。他にございますでしょうか。
藤委員	・一つ確認したいのですが、資料②の今後の課題という点で、補助制度、補助対象者の固定化解消、補助金の効果検証、類似補助金などの整理、補助形態の妥当性、団体の

事務局	<p>自立性や自主性の育成など、5つの項目がありますが、この項目は今後事務局が取り組まれるという理解でいいのか。</p> <p>➡補助金行政を総括してる中で課題として認識はしていますが、中々解消に至っていないので、ここに挙げさせていただいております。最終的には、事務局としても取り組むべきものだと考えていますので、この委員会でご意見をいただきたいと考えております。</p>
藤委員	<p>・委員会の意見を優先して対応してくれるのか、それとも意見を参考にして、事務局で決めていかれるのかということが少し気になったので、その辺りを事務局として決めといてもらった方がいいのではないかと。</p>
事務局	<p>➡附属機関を設置した以上は、委員皆様のご意見を尊重して、いただいた意見を基に課題解決に向けて取り組んでまいりたいと考えています。</p>
事務局	<p>・他にございますでしょうか。</p> <p>それでは、次に進ませていただきます。資料3、補助金決算額の推移をご覧ください。A4横資料でグラフが掲載されているものです。</p> <p>この資料では、平成26年度から令和2年度までの補助金の決算額と、参考として、令和3年度補助金の予算額を一覧にしております。</p> <p>①の表では、左から順に、決算額、補助制度の数、そして補助金、類型別の決算額を年度ごとに載せております。</p> <p>この表をもとにグラフ化したものが、表の右側にある棒グラフになります。</p> <p>グラフを見ていただくと一目瞭然ですが、平成29年度までは概ね横ばいであった補助金決算額は、平成30年度より著しく増加しております。</p> <p>理由といたしましては、本市の公的医療の中核を担う、富田林病院の建て替えに伴い、建設費用を補助金として交付したことによるものです。</p> <p>このため、補助金の推移を、決算額から単純に比較することが難しくなっておりますので、補助金をその性質から、経常的な補助金、臨時的な補助金に仕分けしました。</p> <p>資料下段、②の表は補助金決算額より臨時的な補助金を差し引いたものになります。</p> <p>ここで、臨時的補助金をどのように定義したかを説明いたしますと、富田林病院や民間保育所などの建設費用に対して補助を行ったものとしております。</p> <p>これらの補助金については、臨時的かつ金額的にも、他の補助金と比べて、非常に高額となっており、補助金額の推移を見るにあたり、年度間の比較が難しくなることから、除外することとしています。</p> <p>なお、具体的にどのような補助金を除外したのかを示すのが、次ページ表③の年度別臨時的補助金の一覧表となります。</p> <p>年度補助金名金額を記載しております。1例を挙げますと、先ほども申し上げました富田林病院の建て替え、民間保育所整備、伝統的建造物群の保存補修などの臨時的な整備費用となっております。</p> <p>また、令和2年度にあたっては、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、感染予防や経済対策として、新規の補助金が創設されましたが、これらについても、過去との比較が難し</p>

	<p>くなり、また、感染症が収束することで、見直しとなる臨時的な補助金であるため、こちらも除外しております。</p> <p>表の説明が前後いたしますが、表の②につきましては、今説明いたしましたように、表①の決算額から、表③の臨時的補助金を差し引いたものとなっております。表②の数字を基に作成したグラフが、下段右側の棒グラフとなります。臨時的補助金を除くことで、補助金の推移がどうなっているかが可視化されています。平成26年度から令和元年度において、年度によって事業の増減があるので、一概には言えませんが、横ばい、または、若干の減少傾向にあると考えています。</p> <p>令和2年度については、前年度比較すると、決算額が減少しています。</p> <p>これは定住促進のために実施していた補助金の見直しを行ったこと、また、補助金を交付していた各種事業、イベントが新型コロナウイルス感染症により中止になったことなどが理由となっております。</p> <p>新型コロナウイルスの影響を除いたとしても、先ほど説明しました、本市のこれまでの補助金制度に関する、各種取組みの成果が一定現れてきているものだと考えております。</p> <p>以上で本市の補助金の現状についての説明とさせていただきます。</p> <p>この補助金推移について、何かご質問などはございますでしょうか。</p>
久委員	<p>・次回以降で構わないですが、補助金制度そのものを廃止することによって減額をしている部分、逆にコロナが一つの典型例ですけれども、新しく補助金が生まれたが故の増額した部分というように、制度の廃止、或いは、新設によつての増減部分と、同じ制度で額が増減している部分と、何かその辺りが見えてくると、もう少し分かりやすくなるのかなと思いましたが、内訳を整理していただきたいなと思います。</p> <p>もう1点、富田林病院のお話がありましたが、元々、市立病院の時には、市の財政の中で運営していましたが、それを民間に譲渡することによって新たに補助金が生まれたわけですね。ここは悩ましいなと思っていて、市から外に出した部分は、やはりこれからも継続して補助していかないといけない部分というのがあるんじゃないかと思うので、そこはもう少し、次回以降の議論の中で、市から出したことによって補助金が生まれてしまってるっていうものがあるので、委員会でも慎重に議論したいなと思いました。</p>
事務局	<p>➡確かに市が運営していた時には補助金という予算費目上は出ず、別で予算が生じていたものが、補助金に変わってしまっているという意味で、それだけで補助金が増えているという議論では駄目だと思いますので、委員からご指摘いただいたような資料を事務局の方で、次回までに可能な限り整理させていただきたいと思います。</p>
久委員長	<p>・増減の話よりも、気をつけないといけないのは、必ずしも市が抱えない方がいい事業もあると思うので、その場合は積極的に外に出していく。</p> <p>しかし、それに伴い、お金も外へ出ていってしまうので、こういったものは減額するのではなくて、積極的に活用していくという観点もあるのではないですかと思いましたので、その辺りを委員会としても慎重に議論したいなと思いました。</p>
事務局	<p>➡昨年策定しました行財政経営改革ビジョンの中で、行政領域の検証を一つ大きいテ-</p>

	<p>マとしており、補助金制度につきましても、どこまで市が抱える部分か、また、協働していく部分なのかというところを踏襲していかなければならないと思いますので、より議論しやすい資料作りを事務局で検討したいと思います。</p>
<p>藤委員</p>	<p>・関連するお話として、委員会の設置要綱第2条第2号で今後の行政の役割及び市民の需要に応じた補助金のあり方ということを規定されているが、その中で今後の行政の役割という点について、行政として、総合ビジョンや総合基本計画などで決められたものがあるのであれば、それを尊重させていただかないといけないと思うんですけども、もしなければ今、久委員長が仰られたことと、もう既に実施している分野と、これから実施しようとする分野が出てくるので、その辺りについて、まずは市として、何か総合的な考え方があるのであれば、次回の会議の中で資料として示していただければと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>➡総合ビジョン、総合基本計画などございますので、市の大きい方向性や補助金に絡む内容を含めて、ご用意させていただけたらと思います。</p>
<p>藤委員</p>	<p>・おそらく、協働ということを重点的に置いておられることだと思いますので、その辺りの兼ね合いを示していただければと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>・続きまして、補助金見直しに取り組む目的について説明させていただきます。</p> <p>本日はこれまで市の財政状況や、補助金の取組みについて説明してきました。</p> <p>これらを踏まえて、今後、委員会を進めさせていただくこととなりますが、今回の補助金等検討委員会を開催するに至ったのは、補助金制度のさらなる適正化を図ることを目的としております。</p> <p>補助金は公益性があり、施策の推進に欠かせないものであるとの前提に立ち、ますます多様化する市民ニーズに対応した、より効率的、効果的な制度にしていく必要があります。厳しい財政状況だから廃止するといった削減ありきではなく、選択と集中を行い、既存補助金の見直しや、新たな補助金を創設する際の基準づくりなど、一層の適正化を図りたいと考えております。</p> <p>最後に、個別補助金一覧についての説明をさせていただきます。</p> <p>第2回の委員会より、委員の皆様には、本市の補助金について議論をしていただくこととなりますが、具体的にどのような補助金があるのかを見ていただくために、補助金ごとの決算額、補助の開始年度、目的、公益性、透明性、成果などを総括した一覧表を配布しております。</p> <p>資料は補助金の類型別に揃えており、先ほどご意見をいただきましたが、補助金の総数としては150程度ありますので、全ての補助金の詳細なデータを用意しますと、膨大な資料となってしまいますので、この一覧表に目を通していただき、議論にあたり、より詳細なデータが必要な補助金については、事務局に事前に連絡をいただければ、委員会までに準備させていただく予定です。</p> <p>ここでファイルには入れていませんが、過去の補助金の交付金額の推移や、交付相手方対象経費など、一覧にした調書をご用意しておりますので、ここで配らせていただきま</p>

	<p>す。</p> <p>補助金調書としまして、補助金ごとに、この資料を用意しております。先ほど、ご意見いただきました補助金の推移などがこちらで確認できるかと思っておりますので、この調書または、より詳細な資料というのを、所管課と調整した上で、皆様にご提供できればと考えております。</p> <p>資料の準備などに時間を要することもありますので、委員の皆様には、委員会の時間外でのご依頼となってしまいますが、事前に一覧の資料に目を通していただき、委員会当日の議論をより深いものにしていただければと考えております。</p> <p>また、一覧表において、成果などが空欄になっているものについては、現段階では、明確な基準が設けられていないものや、定量的な成果の設定になじまないものなどがあります。</p> <p>また、表の作成にあたり、各補助金の、所管課の事務量を考慮して、既存の補助金資料を流用しましたので、表現などが統一されていないこともありますので、その点については、ご了承いただけますようお願いいたします。</p> <p>次回の委員会以降、会議の進行につきましては、久委員長に一任したいと考えておりますが、どのような内容について議論するかという点について、事務局としての考えをお示ししたいと思います。</p> <p>今回の委員会にあたっては、補助金制度全体の総論的な議論と、個別の補助金に焦点を当てた各論的な議論、この両方について検討していただきたいと考えております。</p> <p>先ほど、意見がございました、補助金によっては、成果が明確に定められていないものや、制度開始から長期にわたっているもの、時代や市民ニーズの変化に伴い、役割が不明瞭になったものなど、様々な視点から検討していただければと考えております。</p> <p>また、既存補助金の見直しや、新規補助金を創設する際の目安となる基準についてもご意見をいただきましたら、次年度からの補助金制度の見直しに向けて活用していきたいと考えております。</p> <p>只今の説明について、何かご質問などございますでしょうか。</p>
土井委員	・補助金の一覧表の中で、例えば、市議会の方から質問されている、また、指摘されているような補助金の項目というのは把握されておられますか。
事務局	➡即答はできませんが、過去にも市議会、予算委員会などでご指摘いただいている補助金もございますので、資料を整理させていただければ、次回にはご提示できるかと思えます。
藤委員	・団体運営費補助と団体に対する奨励的事業費補助があるんですけど、各団体の会員数や会費、会則があれば、次回までに用意していただきたい。
事務局	➡事務局の方で担当と調整し、できる限り用意させていただきます。
佐井委員	・委託的事业補助というのは、市の求めに対するもので、また、制度的補助というのは、市に裁量が少ないもので、結局、この委員会の中で議論するのは、団体運営費補助と奨励

事務局	<p>的事業費補助という2つを対象とするのか。</p> <p>それとも個人給付や委託的事業費補助までを含めるのでしょうか。個人給付は政策的な判断ですから、これは議会などに諮って決定されているものですから、この委員会で議論する問題ではないんですよ。</p> <p>➡団体運営費補助と奨励的事業費補助というのは、ご議論いただきたい部分であり、制度的補助につきましては、基本的に市の裁量というのが少ない部分でありますので、あまり議論というところにはならないのかなと。</p> <p>個人給付につきましては、政策的な判断で補助しているものという部分がありますが、市の個人給付の中でも、全ての自治体が交付しているものではなかったり、今までの経過の中で継続している部分があり、市だけではなく、客観的な視点でのご意見というのもあるかと思っておりますので、その辺りは広くご意見をいただければと考えております。</p> <p>委託的事業費補助についても、市で仕様書を決めて、事業を実施してもらうというような契約を結んでるわけではありませんで、一定、この委託的という部分の補助金に関しても、事務局としては、議論の中に含めていただきたいと考えています。</p>
久委員	<p>・基本指針が平成26年に示されてから7年が経過していますので、この間、市としてどのような見直しがなされてきたのか。見直しが十分でないから、この委員会が設置されているはずなので、この7年間でどういった改革が行われ、どういった成果が生まれ、課題がどこに残ってるのかというのを整理いただければ、議論しやすくなるかなと思っておりますので、次回の委員会の冒頭で説明いただければと思います。</p> <p>補助金に関する指針やガイドラインなどはこれだけなのでしょうか。</p>
事務局	<p>➡あと、市の内部で使用している補助金事務マニュアルがありますので、次回にはお渡しさせていただきます。</p>
久委員	<p>・おそらく、基本指針が示されてから7年経過しているの、その間に市なりの評価をして、制度を見直したり、補助金額を減額したりというのがなされているはずなので、その辺りをどこまで取り組まれているのかが知りたいので、そうすれば我々もその延長上で議論ができるのではないかと思います。</p> <p>それと、委員会に丸投げするのではなくて、市として何を課題としているのかというところをもう少し整理できるのではないかと思います。</p> <p>例えば、補助制度の内容そのものが時代に即していないものや、本来補助ではなくて、自らの自主財源で行ってほしいというもの。</p> <p>更には、町会が典型的な例だと思いますが、相手方を随意契約のような形で決め打ちして、補助金を渡してしまっているため、競争性が担保されていないなど、いくつかの観点があると思うので、その辺りを事務局がどういった課題を抱えているのか、上手く整理をしていただいて、委員会の中でも共有させていただければと思います。</p> <p>先ほど、佐井委員が仰られていた話は私も同様に感じており、委託的事業費補助という言葉自体が問題であり、委託なら委託、補助なら補助なんですけれども、グレーゾーンなので委託的事業費補助と表現してしまうわけで、ここを委員会でしっかりと議論しておか</p>

	<p>ないといけないのではないかと思います。そういった意味で、委託的事業費補助のグレーゾーンをクリアにして、委託に振り分けることができれば、補助金ではなくなってしまいますので一覧表にも上がってなくなりますので、そこを整理するためにはいくつかの観点がありますので、事務局としても整理をして欲しいと思います。</p> <p>個々の補助金をどこまで切り込むかについては、とても悩ましい問題で、お配りいただいた調書のレインボーバス網事業補助金についても、私が関わったある市で10年ほど前に同じコミュニティバスの補助金の見直しのための委員会に参加させていただきましたが、この補助金一つを見直すだけでも、数回の議論を重ねて、結論を出した経緯がありますので、個々の補助金というのは、慎重に時間をかけて議論をしないと、我々が限られた時間の中で議論して結論を出すという問題ではないのではないかと。</p> <p>個々の補助金について検証はするけれども、その一つ一つをどうするのかではなくて、ケース事例として取り上げて、どのような検討が必要かということを俎上に乗せていくぐらいの考え方でいければと思いますが、事務局としても同様でしょうか。</p>
事務局	<p>→ターゲットという言葉が適しているか分かりませんが、事務局として懸案となっている補助金や何度と議会などからもご指摘されてるような補助金を抽出して議論させていただきたいとは考えていましたが、先ほど、久委員長からご指摘のあった、事務局として考えている課題を共有するということで、どうしても具体的な例として関連する補助事業がひと纏まりで見えてくるような形になってしまいますので、俎上を作る上でも具体的な補助事業を紐づけて議論するというようなイメージを考えていたのですが、そのような理解でもよろしいのでしょうか。</p>
久委員	<p>・結論として、限られた時間の中で、この委員会で個々の補助金を適正であるとか適正でないとか、そういった議論をするところまでいけるのかということだったんですが。</p>
事務局	<p>→確かに市の補助金は150ほどございますので、そこまでは無理だと思いますが、事務局が課題として認識している部分として、総論部分と各論部分の課題というのがございますので、次回までに事務局が整理を行い、懸案となっているような補助金を抽出し、お示しするということは可能なんですけれども。</p>
久委員	<p>・ケース事例として示していただいて、議論する中で、こういった整理が必要だとか、こういう基準があればいいよね、というような議論ができればいいのかなと。そういう意味では私の指摘と同様だと思います。</p>
事務局	<p>→全5回という限られた回数しか、委員会がご用意できておりませんので、全体としての俎上づくりに重きを置いて、ご議論いただければと思います。その中で個々の補助金については、執行部の方で検討を深めていくということにさせていただきたいと思います。</p>
久委員	<p>・今までの議論の中では、既にある個々の補助金をターゲットにしながら考えていくというお話でしたが、少し違った観点でこんな議論もありますよということを紹介させていただきたいと思いますが、全国のある自治体では、地域自治システムというものが作られており、お隣の河内長野市では既に小学校区単位でまちづくり協議会が立ち上がってきましたけれども、その議論の中に私も一緒に参加させてもらい出てくる話が、各地域には個別に補助金</p>

	<p>が出ていて、それを合わせますと大体1000万円程度の補助金が毎年地域に落とされているんです。この地域自治システムの検討の中では、補助金を個々に紐付きでお渡しするのではなくて、一括交付金として地域に1000万円渡してしまうと。その代わりに、自分たちの地域の課題を自らの手で解決していただいて、その他の補助金は交付しませんよというような思い切った改革もありではないのかと。</p> <p>ただし、公金ですので報告はきちんとしていただいて、議会にも報告をし、監査のチェックを受けるというようなシステムもありなので、そういった視点も頭の中に入れていただければと思います。</p>
藤委員	<p>・総論と各論のどちらの部分で議論すべきなのか、この委員会の役割をもう少し具体的に絞ってもらう方が議論しやすいような気がします。</p> <p>極端な言い方をすると、先ほどもお話が出ましたが、委託的事業費補助については、個人的に仕様書が必要だと思います。仕様書は行政が作っているのだから、その仕様書に基づいた成果が出ているのかどうかということは、報告をもらえば、担当課で評価してしますので、評価をして、これでは駄目だということであれば、民と公の中で、仕様書どおりにできていないからお金を払いませんというようなことができるんですけども、補助金であれば、来年頑張ってくださいという程度で終わってしまいそうな気がするのですが、本当に委託であれば、競争にかけてもいいのではないかと私も思いましたので、それを発言させていただこうかなと思ったんですけども、個々の補助金の良し悪しについて発言していいものなのか、それとも総論で発言すべきものなのか、というところで不安になりましたので、先ほどの久委員長のご意見では、この委員会では総論基準で議論を行い、個々の補助金の査定については、事務局の方で行っていただければいいのかなと思います。</p>
事務局	<p>➡事務局として、考えが定まっていなくて今日を迎えてしまい申し訳ございません。</p> <p>この委員会では、総論的な議論の中でそれに紐づく各論的な議論に自然に入っていければと欲張って考えていたのですが、限られた時間の中での委員会となりますので、委員の皆様からご指摘いただいた内容を踏まえ、まずは、総論的な部分の整理を最優先に進めさせていただければと考えております。</p>
中川委員	<p>・藤委員が仰られたことで感じていることですが、100数十の補助金が交付されていて、当然、その目的と補助金による政策実現を意図して、交付されているわけですね。そこで、各担当課の方が、補助金を交付したことで、どのような成果が上がったのか、或いは、交付団体に対して、どのような評価や検証をされているのかなど、監査している中で疑問に感じるところがあります。</p> <p>それを事務局である行政管理課の方で全て把握することは、正直難しいと思うんですけども、やはり議論するにあたっては、担当課がどのように各々の補助金を見ているのかということ、不完全なものであっても構いませんので、何か資料で示してもらえれば、分かりやすく議論できるのではないかと思います。</p> <p>例えば、レインボーバスの補助金調書を例に取り上げて、それを総論的に課題を検討</p>

事務局	<p>するのかっていうことも仰られていると思いますが、調書ではレインボーバスのあり方検討部会の設置が記載されていて、そこで現に侃々諤々議論されているわけですね。</p> <p>この委員会は補助金自体のあり方の問題を検討するところで、必ずしも重なっているとは思いませんが、その検討部会でどういう議論がなされているのか示してもらわないと、検討部会と違った方向性をこちらで議論することはできないのではというのがあります。</p> <p>➡評価と成果がないので、継続的になってしまっているところもあるのかなと。事務局がそれを言ってしまうと元も子もないんですけども。</p> <p>今回、附属機関を設置させていただいて、一定のご答申をいただいた中で、補助金事務を改善させていく、今の補助金単体という中では、中々PDCAサイクルを回せていないところがございますので、そこは、またご議論いただければ幸いかなと思っております。</p>
久委員	<p>・先ほどの藤委員のお話の延長上なんですけど、実は補助金の手前で、団体と市役所の関係性をきちんと議論しておかなければならないということなんです。</p> <p>各地域には協議会や連絡会というのが数多くあって、設立当初の経緯というのは、市役所だけでは全てのことを対応できないので、地域の方々をお願いをして協議会や連絡会を作っていた。しかしながら、協議会や連絡会の方々が自分たちだけでは難しいところもあるので、事務局を市役所が運営したり、補助金を交付するということで納得していただいている協議会や連絡会が数多く存在していると思います。</p> <p>そろそろその関係性そのものを再構成しませんかということで、事務局が市役所にありつつ、外にあるようなふりをしてる協議会や連絡会が数多くあると思いますので、事務局が本来、市役所にあるべきものは市役所に返してしまう。</p> <p>外に出さないといけない問題だったら、補助金も止めてしまって、協議会や連絡会自らで事務局を運営してもらおうというような整理ができないと、多分お金の問題だけを切り取って議論できない部分もありますよね。</p> <p>どこまでそこに切り込めるかが、かなり難しい問題ではあるんですけども、協議会や連絡会の設置当初の経緯と今回の補助金の検討というのは密接に関係しているので、委員会でもその点は念頭に置いて、議論をしないとイケないのかなと思います。</p>
佐井委員	<p>・冒頭にも質問しましたが、団体運営費補助という名称そのものが間違いで、一般的に団体運営費補助というのは、団体が立ち上がる時の初期支援として3年から5年ぐらいで補助するもので、以降の運営の補助はしないんです。</p> <p>しかしながら、資料②の補助金の種類のところに運営費という記載がなされていて、非常に誤解を生みやすいと思います。</p> <p>また、先ほど、事務局からご説明がありましたが、過去から残っている団体については、運営に必要な基礎的経費を補助するが、これから新しく立ち上がる団体については初期支援の補助だけを行うということですが、それは公平性に欠けるのではないかと思います。</p> <p>どの団体に対しても、同じ内容の補助金であれば、同じように交付していかないと、行政に求められている中立性や公平性を考えると、市民の方が不満を持つと思いますので、ま</p>

事務局	<p>ずは、団体運営費補助について厳しく整理していく必要があるかと。</p> <p>あと、先ほども述べましたが、奨励的事業費補助や委託的事業費補助というのは、行政として、今は外に出していくという流れがある中で、補助金として行うのか、受託事業として行うのか、曖昧な部分もある中で、補助金はどこまで会計処理が適正になされているのか分かりませんが、長年、地元の方にはご協力いただいているところもあり、お互いに助長し合う関係は続いているので、そういった面も考慮すると、補助金の位置づけや目的などを総論的に整理して、あとは、それに従って進めていただければいいのかなと思います。</p> <p>個々の補助金までこの委員会で検証することは不可能だと思います。</p> <p>➡担当課が補助事業を実施している中で、改革や改善に向けてのPDCAサイクルが回せていないというところで、この委員会を設置させていただきました。正直なところ補助金の交付が当たり前になってしまっている部分もあるかと思っていますので、総論的に補助金の整理を行い、紐づいてくる各論的な部分について、行政内部で検証を深めていければと考えていますが、具体例として個々の補助金を抽出して、議論いただくこともあるかと思っています。</p>
久委員	<p>・今までの補助金のリストだけを見ていると、今後、必要な補助金は出てこないのでは、そこは委員会としても議論が必要かと思っています。</p> <p>河内長野市では、5年間の内、2年間は10分の10、100%補助いただけるんですが、残りの3年間は補助率が下がり、5年間で新しい団体を育てるというシステムを持たれているんですが、富田林市では全般的な市民活動の立ち上げ支援の制度が存在しないんです。</p> <p>だからそこは、ぜひとも富田林市にも制度として欲しいなと思いますので、必要なものは新設をして頑張ってください、その分どこかを削らないといけないのでその辺りをどうしていくのか。</p> <p>先ほど、藤委員の方から団体さんの概要を示して欲しいというお話があったんですが、それにも関連するところですが、特に地域の既存団体が、既得権を持って、かなりの補助金を持っていつてしまっているんで、そこに手を加えない限り、NPOや若い方々の新しい市民団体は育っていかないんで、そのバランスの問題もこの委員会では議論できるのではないかと期待します。</p>
事務局	<p>➡それでは、今後の委員会の進め方を確認させていただきます。</p> <p>まずは、補助金を分類している中で、種類別の補助金はどうあるべきなのかという、総論的な議論をしていただくというところで、これまでの市としての取組みや現状の課題、議会などから指摘されている内容などをまとめて、次回の委員会で必要な資料をお示しさせていただきます。</p> <p>行政改革の一環でこの取組みはしておるんですけども、最初に市長からもお話がございましたように投資すべきものには投資すべきと考えておりますので、その辺りのメリハリをつけるようなご意見をいただければと思っております。</p> <p>また、事務局にご意見などございましたらメールや電話などでも構いませんので行政管</p>

	<p>理課宛にいただければと思います。その他ご意見ございませんでしょうか。 ご意見ないようでしたら、吉村市長より最後に一言、ご挨拶をいただきたいと思います。</p> <p><b>6. その他</b></p> <p><b>◆市長挨拶</b></p> <p>・どうもありがとうございました。</p> <p>これまで長年にわたって補助金制度を実施してきた中で、成果もありましたが、それが本当に検証できているのか、これからの時代に今の仕組みのままがいいのか、本当に必要なのか、また、制度を改良して、更に作っていく必要があるのか、久委員長が仰られていたように立ち上げ時の支援で特に市民の皆様も苦しいというお話がありますが、現状、富田林市ではその制度がないなど、委員の皆様方からも様々なご意見を賜りました。</p> <p>個別の話もありますが、そもそも何のためにこの補助金制度を作るのか、何のために市は施策を作るのか、何を指すのか、どんなまちを作っていくのかという根底はですね、担当とも色々と議論をしながらですね、やっておりますので、その方向に向かってどうあるべきなのかということを議論していきたいと思います。</p> <p>大きな課題ではありますが、これは富田林としては乗り切っていかなければならないと思っておりますので、私もできる限りその問題意識を持ってですね、参画していきたいなと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>市長</p> <p>事務局</p>	<p>・ありがとうございました。最後に全体を通してご意見などはございませんでしょうか。</p> <p>次回は11月12日金曜日の午後2時半から、市役所2階の201会議室で開催をさせていただきます。</p> <p>それではこれもちまして、本日の委員会は終了とさせていただきます。長時間にわたり、ご意見いただきましてありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>